

授業科目名	失語症 I	授業形態	講義	配当学期	1年（前期）
担当教員名	春芳 準朗	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕 失語症について基礎的な分野を学習する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症とは何かを説明できる ・失語症の古典的8分類が説明できる。 ・言語症状について説明できる。 ・SLTAの検査を、マニュアルを見ながら実施できる。 				
授業回数	授業内容				
第 1 回	失語症と定義				
第 2 回	失語症と関係の深い脳の仕組み				
第 3 回	失語症の原因疾患				
第 4 回	失語症の症状(1)				
第 5 回	失語症の症状(2)				
第 6 回	失語症の症状(3)				
第 7 回	失語症の症状(4)				
第 8 回	失語症の症状(5)				
第 9 回	伝統的な失語分類(ブローカ失語・ウェルニッケ失語・伝導失語)				
第 10 回	伝統的な失語分類(失名詞失語・超皮質性運動失語・超皮質性感覚失語)				
第 11 回	伝統的な失語分類(混合型超皮質性失語・全失語)				
第 12 回	失語症言語治療の進め方・標準失語症検査(1)				
第 13 回	標準失語症検査(2)				
第 14 回	標準失語症検査(3)				
第 15 回	まとめ				
評価方法	定期テスト8割、小テスト2割				
教科書 参考図書	失語症学（医学書院）				
	〔教科書〕 毛東真知子著「絵でわかる言語障害」（学研） 日本高次脳機能障害学会編著「標準失語症マニュアル」（医歯薬出版会社）				
履修上の 留意点	〔参考図書〕 紺野加奈江著「失語症言語治療の基礎」（診断と治療社） 伊藤元信・笹沼澄子「新編 言語治療マニュアル」（医歯薬出版会社）				
	失語症は、臨床現場で多く取り扱われる言語障害の一つです。基礎をしっかりと身につけ、今後の臨床実習に役立てるよう常に探求心を持ち続けることが大切です。				
メッセージ	実習や臨床に向けて教科書、文献を読める、読んで理解することも出来るようになってほしい。				